

# Press Release

令和8年2月4日

報道機関各位

## シンポジウム 「越境するナラティブ—他／多言語による文学は何を紡ぐか—」 の開催について

富山大学人文学部において、シンポジウム「越境するナラティブ—他／多言語による文学は何を紡ぐか—」を下記の日程で開催いたします。

つきましては、本催事に関して、取材・報道方よろしくお取り計らい願います。

### 記

名 称 : 越境するナラティブ—他／多言語による文学は何を紡ぐか—

日 時 : 2026年2月14日（土） 13時00分～17時00分

場 所 : 富山大学人文学部3階第6講義室（富山市五福3190）

参加対象 : 学生、教員、一般

申込方法 : 予約不要

概 要 :

移民の増加、戦争や迫害による難民問題、グローバル化や多文化共生など、現代社会は一国の枠組みでは捉えきれない課題に直面しています。こうした社会の変動に伴い、文学のあり方もまた、単一言語による「国民文学」という枠組みにとどまらなくなっていました。国境を越えた移動や移民、戦争や迫害の記憶などを背景に、複数の言語や文化のあいだで生み出されてきた文学は、現在、世界各地であらためて注目を集めています。本シンポジウムでは、人々の「ナラティブ（語り）」が国境や文化、言語を越えて伝わるとき、何を喪失し、何を継承し、何を生みなおしてきたのかを検証します。

当日は、6名の研究者がそれぞれの専門分野の立場から、アメリカ大陸、ヨーロッパ、アフリカ、アジア、あるいは特定の地域や国家の枠組みを超える人々や集団のナラティブについて発表します。

本シンポジウムを通して、文学という営みを手がかりに、「越境」が不可避な現代社会における他者との共存や、記憶の継承・再構築の問題について考える新たな視座を提示することを目指します。文学、他／多言語、人種・民族、移民・難民問題、記憶の継承などに関心をもつ学生、教員、一般の方々の来場を歓迎します。

※詳細は別添のポスター及びプログラムをご参照ください。

**【本発表資料のお問い合わせ先】**

富山大学 人文学部 秋田研究室

TEL : 076-445-6131 (人文学部総務担当) Email : akita@hmt.u-toyama.ac.jp

【本発表資料の配信元】富山大学総務部総務課広報・基金室 (TEL) 076-445-6028 (FAX) 076-445-6063

シンポジウム「越境するナラティブ——他／多言語による  
文学は何を紡ぐか——」  
プログラム

開催日：2026年2月14日(土)13:00-17:00

会場：富山大学五福キャンパス人文学部棟3F 第6講義室

---

13:00-13:10(10分)

開会挨拶

秋田 万里子(富山大学)

---

13:10-13:35(25分)

西 成彦(立命館大学名誉教授：ポーランド文学・比較文学)

「旅するひと、旅する言葉」

司会：福島 亮(富山大学)

---

13:35-14:00(25分)

秋田 万里子(富山大学：ユダヤ系アメリカ文学)

「消えゆくものに息を吹き込む——『ヒストリー・オブ・ラブ』における翻訳と継承」

司会：福島 亮(富山大学)

---

14:00-14:25(25分)

中里 まき子(岩手大学：現代フランス文学)

「シュヴァルツ＝バルトの小説が伝えるユダヤ人の記憶と黒人の記憶」

司会：福島 亮(富山大学)

---

14:25-14:35(10分)

休憩

---

**14:35-15:00(25分)**

福島 亮(富山大学:フランス語圏文学・思想)

「環大西洋アフリカ人強制移送(DTS)の記憶——アフロトロープを手がかりに」

司会:秋田 万里子(富山大学)

---

**15:00-15:25(25分)**

水野 真理子(富山大学:日系アメリカ文学)

「日系アメリカ文学史の再考——こぼれ落ちた文学活動を問い合わせ直す」

司会:秋田 万里子(富山大学)

---

**15:25-15:50(25分)**

日比 嘉高(名古屋大学:日本近現代文学・出版文化史)

「越境する文学は何に支えられていたのか——帝国日本の出版文化から考える」

司会:秋田 万里子(富山大学)

---

**15:50-16:00(10分)休憩**

---

**16:00-16:50(50分)**

全体討論・質疑応答

ディスカッサント:武田 昭文(富山大学)

---

**16:50-17:00(10分)**

閉会挨拶

秋田 万里子(富山大学)

---

**18:30-20:30**

懇親会

---

# シンポジウム 「越境するナラティブ—— 他／多言語による文学は何 を紡ぐか——」

ナラティブ（語り）が言語や国境  
を越えるとき、何を失い、何を受け継ぎ、何を生み直すのか——。  
文学作品に探る。

開催日：2026年2月14日（土）

13:00-17:00

会場：富山大学五福キャンパス  
人文学部棟3階 第6講義室

問い合わせ先：富山大学人文学部 秋田研究室  
[akita@hmt.u-toyama.ac.jp](mailto:akita@hmt.u-toyama.ac.jp)

## 登壇者・タイトル

1. **西成彦**（立命館大学名誉教授：ポーランド文学、比較文学）  
「旅するひと、旅する言葉」
2. **秋田万里子**（富山大学：ユダヤ系アメリカ文学）  
「消えゆくものに息を吹き込む——『ヒストリー・オブ・ラブ』における翻訳と継承」
3. **中里まき子**（岩手大学：現代フランス文学）  
「シュヴァルツ=バルトの小説が伝えるユダヤ人の記憶と黒人の記憶」
4. **福島亮**（富山大学：フランス語圏文学・思想）  
「環大西洋アフリカ人強制移送（DTS）」の記憶——アフロトロープを手がかりに」
5. **水野真理子**（富山大学：日系アメリカ文学）  
「日系アメリカ文学史の再考——こぼれ落ちた文学活動を問い合わせ直す」
6. **日比嘉高**（名古屋大学：日本近現代文学・出版文化史）  
「越境する文学は何に支えられていたのか——帝国日本の出版文化から考える」